

インドネシア，スンバ島における衣生活（第2報）

—— 所有衣服と管理について ——

古川智恵子・森川里子

Study on Clothing Life in Sumba Island, Indonesia (II)

—— Tribe's Clothes and their Management ——

Chieko FURUKAWA and Satoko MORIKAWA

はじめに

東南アジアの海洋に広大な分布をする群島国家インドネシアは、東西5000km，南北1800kmにわたる島々で、そこにはさまざまな民族が今なおそれぞれの島で独自の文化を伝承し、守り続けながら生活をしている。このことは、アジアの生活文化伝承の流れを研究する上で重要な実証を示すことにもなる。前報¹⁾ではスンバ島東部に位置するカプドック地方での王の葬儀と装束についてその非日常における伝統的側面からの報告を行った。本研究では、それらの人達の日常の衣生活に視点をおき、所有衣服と管理について調査考察することを目的とする。

調査方法

1. 調査時期 1988年8月上旬～下旬
2. 調査地点 東スンバの首都 Waingapu，内陸部の Lanbanapu，海岸地域の Melolo，西スンバ内陸部の Anakalang の4地域を現地調査した（図1）。
3. 調査対象および方法

上記4地域の各集落における経済的 high レベルである Raja（王），郡長格および平均的一般レベルの家庭を訪問し，その家族の衣服調査について協力を依頼した。すなわち，質問紙を作成し，面接方式にて調査質問項目について聞き取り，観察，実物写真撮影，計測等を実施した。

通訳は，インドネシア語，英語に精通した和歌浦幸英氏が同行してくれたのでスムーズに調査は進行した。しかし，地域的，時間的な制約があるので限られた調査数しか出来ず，したがってこの

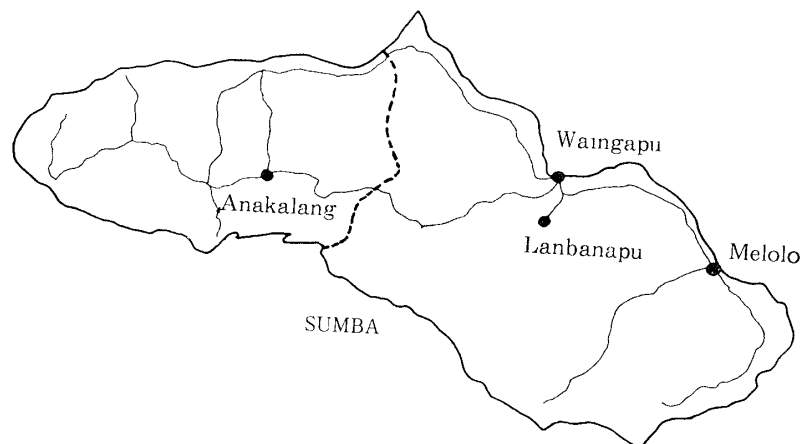


図1 調査地点

調査範囲内での考察を試みたものである。

4. 調査内容

- | | |
|------------------------|-------------|
| (1) 基本属性 | (4) 衣服の収納方法 |
| (2) 所有衣服名（和名，スンバ語衣服名称） | (5) 衣服の入手方法 |
| (3) 上流・一般家庭所有衣服 | (6) 水浴と洗濯回数 |

5. 調査表の作成

上記に掲げた質問項目に調査上の便宜を考慮し，各々記号を付し（表1）調査表を作成した（表2）。

6. 資料の整理

回収した調査表は4地域の集落別に分けて単純集計およびクロス集計を行い，地域別集落の特徴並びに考え方の差異について調べ，日常の衣生活経営の実態について検討した。

結果および考察

スンバ島は行政と文化の面から東部地方と西部地方に分けられ，東部海岸地方は綿織物の染織が盛んである。内陸部は海岸地方に比べて雨が多く，農作物（キャッサバ，とうもろこし）がよく育ち，馬，水牛，牛を飼育するのに対し，海岸部は雨が少なく乾燥しているため作物が育たず，乾燥した土地に適した綿花を育てて染織を行うようになったのである。そして海岸地方で作られた染織品と，内陸部で作られた農作物，馬，牛，水牛などの家畜と交換されて地域分業がうまく行われ，交換経済が成立していたのである。現在では染織品，馬，牛，水牛などが島内のみでなく，島外にも移出されて島の収入源となっている。

今回の調査結果については，共通する部分，相違する部分について，紙幅の都合上代表的事例を提示してまとめることにする。

1. 対象者の属性

表3-1は各調査地域毎の経済的上流家庭と平均的一般レベル家庭における家族構成と年令別員数および生業を示したものである。上流家庭（Raja，郡長級）の世帯主は，広大な土地を有し，自分の財力，資力に応じて2人以上の妻を持つことが認められており，その家族は同じ敷地内にそれぞれに家を持たせ住まわせている。したがって上流家庭の生業については牧畜，染織，農業を営み，すべて一族郎党の必需品は自給自足でまかなわれている。

一般家庭では農業か織物を行い自給生活をしているが，西スンバ内陸部の Anakalang 地域は上流・一般家庭ともに織物は行われず農業と牧畜のみで，物々交換により織物を入手する。表3-1に対象者の属性を示し，表3-2に子供の年令区分を示した。

2. 上流・一般家庭の住まいとくらし

衣生活は，衣食住という三つの日常生活の中で複雑にからみあいながら，文化的変容の大きい側面をもっていると考えられる。したがってこの意味から，その土壌となる住まいやくらしについても，ふれる必要がある。

スンバ社会においては王侯，貴族，平民，奴隷と明確な階級制度が確立されており，住まいや所有衣服にも相当差が見られるところから，その視点からの調査となったのである。今回の調査で上流家庭とは王侯，貴族を含め，一般家庭は平民階級を指している。

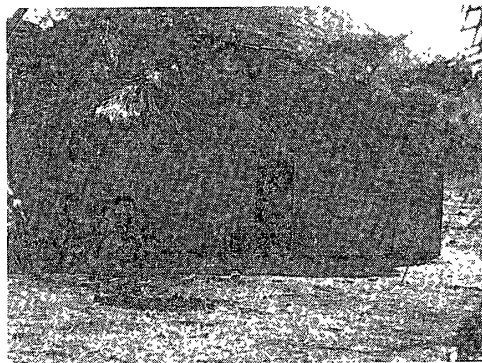
スンバ島の首都 Waingapu の家の集落の屋根はカヤ葺きが大半であるが，最近外来文化が入り，トタン葺きがところどころ見られるようになって来た。Waingapu は古くからの貿易港で，スンバ島の中で最も発達した地域であり，島外からの影響を最も受けやすい地域である。この

表3-1 対象者の属性

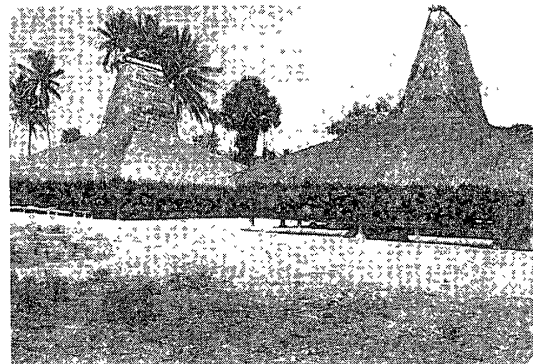
調査地域	区分	家族構成										牛 業	
		家族 世帯 年令	妻 年令	こ 供				祖父 母					
				乳	幼	少	青						
東部スンハ WAINGAPU	上流	1 48才	1 40			2		2	79 68	牧畜 貿易			
	一般	2 46 50	2 47			5	2			農業 織物			
東部スンハ LANBANAPU	上流	1 53	1 50	1	1	3	2	1	71	牧畜 農業 織物			
	一般	2 38 41	2 35		2	2	1			織物 農業			
東部スンハ MELOLO	上流	1 60	3 55		2	5	3			牧畜 農業 織物			
	一般	2 43 36	2 31		3	2	2			織物 農業			
西スンハ ANAKALANG	上流	1 51	2 49		1	3	2			牧畜 農業			
	一般	2 29 48	2 40	2	1	2	1			農業 家畜			
計	上 一般	12		16		3	10	22	13	3	上流	一般	
	内 訳	上	—	上	—	上	—	上	—	上	—	上	—
		4	8	8	8	1	2	4	6	13	9	6	7

表3-2 年令区分

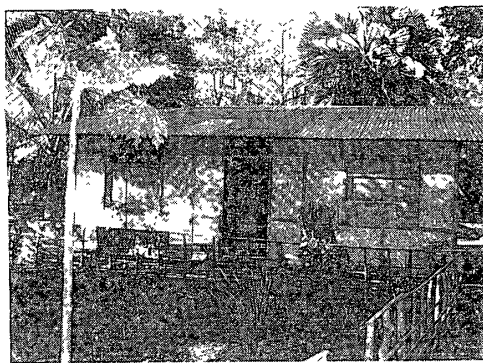
区分	年令	年令
乳 児	0~2才	
幼 児	3~7才	
少 年	8~14才	
青 年	15~26才	



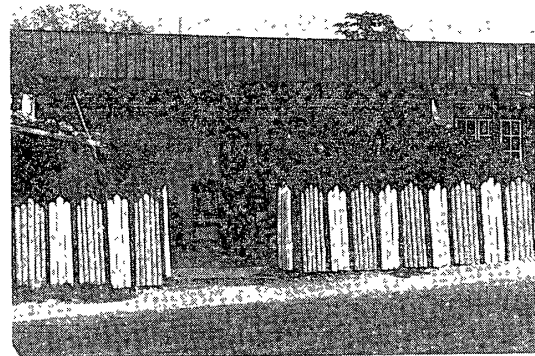
a 寄棟型 (Waingapu, Lanbanapu)



c マンサード変形型 (Melolo, Anakalang 地域)



b 切妻型 (Waingapu, Lanbanapu)



d 陸屋根型

図2 スンバ集落の屋根型

傾向は首都に近い集落 Lanbanapu などに同傾向が見られるが、遠隔地である Melolo では筆者の調査した時点では認められなかった。図 2 にスンバ集落の屋根型を示す。屋根形態が Waingapu と Lanbanapu は寄棟型（a）か新築のトタン葺きの場合は切妻型（b）であるが、Anakalang 地域は寄棟型に丁度帽子をかぶせたようなマンサードの変形型（c）もあり、地域によって異なっている。

（1）上流家庭

次に Waingapu の上流家庭を訪問した。生業は貿易商を営み、インド、ジャワ、スマトラなどへスンバの織物を輸出し、そこからその土地の衣料、日用品、家具などを輸入している。したがって異文化に触れる機会が多いので家の造りも陸屋根型（d）で、西洋風に建てられており、家具、調度品もすべて他の一般家庭には見られない洋式のものが取り揃えられていた。これは職業が大きく影響しているものであり、他地域の上流家庭には見られない状況である。

他の3地域の上流家庭と一般家庭を訪問して最も大きく相違する点は、所有する土地、家、牧場の広さ、家畜の数など、天と地程の相違が見られる。例えば上流家庭の Melolo の Raja（王）は、馬400頭、水牛100頭、牛100頭、豚80頭、鶏200羽、畑50haを所有し生活を営んでいるが、家族は妻2人、子供7人、使用人など約100人の面倒をみているということであり、それに対して一般家庭では豚4頭、水牛1頭、鶏5羽、犬2匹、畑作も一家族の自給自足の1ha程のもので、住まいの広さも推して知るべしである。

（2）一般家庭

一般家庭の調査は Waingapu から一步中心部を離れた山手での前項図 2 - a に掲げた家での調査をここでは例示する。いずれの地域でも共通して屋根はカヤ葺き、竹の皮で編んだ壁面で囲われ、土間式の構造で、寝室、居間、食事をするところは割竹が並べられて床が作られている。生業は小規模の牧畜、農業である。家の中は電気はなく、日の入りで人間も家畜もともに眠り、日の出とともに光が竹のすき間から差し込み、起き出す。風も適当に入り、家の中で煮炊きする煙も天井から抜けて、防暑用に工夫された家屋構造になっている。仕事の性役割は、女性は料理、洗濯、衣類の修繕、育児、畑仕事、機織りなどである。男性は外の仕事、牧畜、農業などに従事する。子供は水くみと大体仕事の役割分担が確立している。

上流家庭・一般家庭ともに殆んど自給自足的に物々交換の経済体系で生活して来た。

以上のような生活構造の中で、日常の衣生活はどのように営まれているのか、次にまとめる。

3. 所有衣服名と所有率

図 3 は男・女（世帯主・妻）の所有衣服名と所有率を示した。調査した4地域全体で高率所有衣服を占めるのは何かを見たものである。

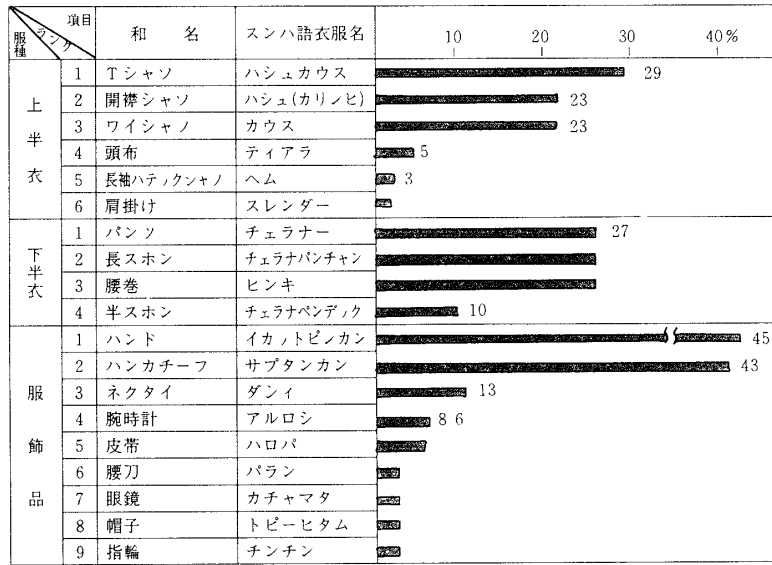
（1）男性

男性はバジュカウス（Tシャツ）29%、チェラナパンジャン（長ズボン）27%、ヒンギ（藍染めの腰巻および藍、茜、蘇芳、黄などの多色染めによる腰巻、或は染色を施さない男性の腰巻等の総称）27%が高率を占め、チェラナー（下着）も同率の所有が見られる。

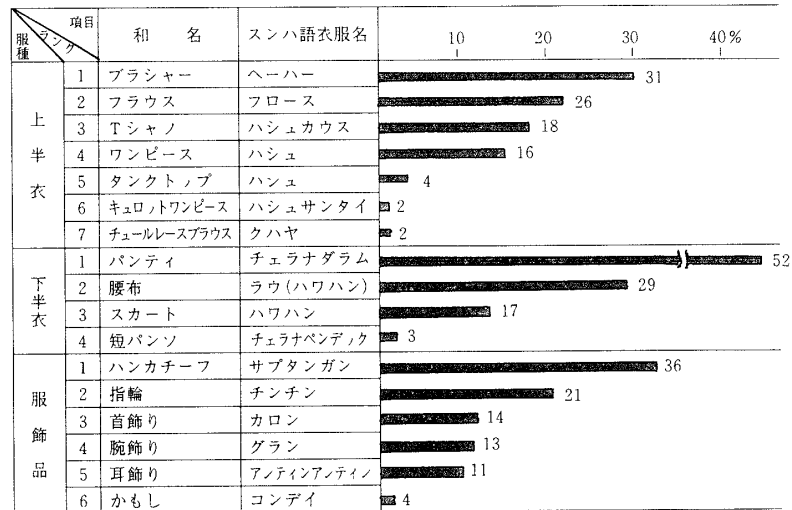
（2）女性

女性ではチェラナダラム（パンティー）52%、ベーハー（ブラジャー）31%の下着の所有率が最も多く、上衣ではブローズ（ブラウス）26%、バジュカウス（Tシャツ）18%、下衣ではラウ（腰布）29%、バワハン（スカート）17%などである。

以上の衣服の中で男女とも、下着の所有率が高いことについて次に考察を試みる。



男性 (世帯主)



女性 (妻)

図3 男・女 (世帯主・妻) の所有衣服名と所有率

(3) 下着について

下着を着用するのは、近年になって見られた衣服文化の変容の一側面である。日常生活の中で下着を着ることは、若者の間で広がりを見せているがまだ全般的ではない。男性の下着はチェラナー (パンツ) と呼ばれ、長ズボン、半ズボン、ヒンギの下着として着用する。女性の下着はヘーハー (ブラジャー) とチェラナダラム (パンティ) である。チェラナダラムは、腰布、スカート、ワンピースの下に、ヘーハーはTシャツ、ブラウスなどの下につけるが、今回の調査では、ヘーハーは上流家庭の婦人のみの所有に認められた。元来スンバ族は男女とも第二次世界大戦までは上体裸身を常としていた。したがって着用しなくても余り苦にならないし、また結婚して乳児をかかえている場合には授乳のじゃまになるといって着装しない。また一般家庭の高年者ではブラウスとサロンの伝統衣装を着用している人が多いが、下着は殆んどの人をつけていない。これは経済的要因によるものが大であるが、しかし下着は今後上着が広がったと同じように、スンバ族の衣服体系の中に徐々に受容されていくであろう。

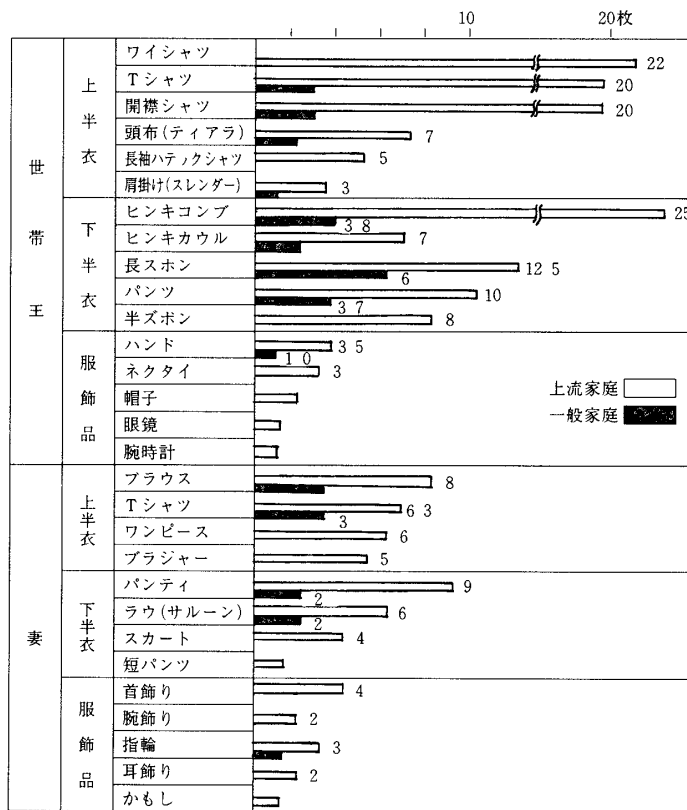


図4 上流・一般家庭所有衣服平均枚数の比較

4. 上流・一般家庭所有衣服平均枚数の比較

図4は上流家庭（王侯，貴族階級）と一般家庭（平民）の服種別衣服所有平均枚数の比較であるが，これは家庭の経済レベルで大きく異なる。

(1) 世帯主

上流家庭の世帯主の上半衣であるバジュカウス（Tシャツ）は一人所有平均枚数が20枚に対し，一般家庭では2.8枚，バジュ（開襟シャツ）も同様の結果である。下半衣ではヒンギコンブ（藍，茜，蘇芳，黄などの多色の染めによる経緋の正装用男性の腰巻）が上流家庭25枚の所有に対し，一般家庭では3.8枚，チェラナパンジャン（長ズボン）12.5枚に対し，6枚と大きく所有の開きを示している。

(2) 妻

妻の所有する衣服平均枚数は，上半衣では上流家庭8枚に対し一般家庭3枚，下半衣ではパンティー9枚に対し2枚，ラウ（腰布）6枚に対し2枚と，いずれも一般家庭では洗濯着替えのための最低枚数の所有である。

(3) 服飾品

服飾品においては男性，女性とも上流家庭のみが所有しており，一般家庭では全く所有が見られず，わずかに指輪を一名所持しているのみである。

5. 子供衣服平均所持枚数

図5は子供の衣服平均所持枚数の上流・一般家庭を図示したものである。乳児，幼児，少年，少女，青年を通し一般家庭では全服種を通して日常生活における最低枚数の2枚が所持枚数であることと，上流家庭においても3枚が所持平均枚数で，子供の年齢層においては上流・一般

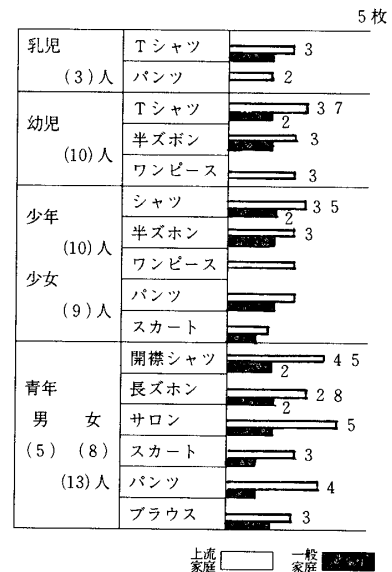


図5 子供衣服平均所持枚数

家庭ともに余り差は見られない。

6. 衣服の収納方法

(1) 上流家庭

衣服の収納方法は、上流家庭では図6-aに示す形式の洋服箆笥が主流に用いられて整理されている。箆笥の上置きにはバジュカウス (Tシャツ)、ヒンギコンブ、チェラナー (パンツ) などきちんとたたんで収納されている。表4は衣服収納方法を服種別に示したものである。上流家庭はいずれの地域においても世帯主・妻とも上半衣、下半衣、服飾品すべて洋服箆笥に収納している。一部開襟シャツ、長ズボン、パンツなど洗濯して古くなったものは箱などに納める。

(2) 一般家庭

一般家庭では、家の中の柱と柱に紐を引張り、それに無雑作に引かけているのが大半であるが (図6-b), 中にはダラムペティ (衣装箱) に晴着などは収納し、家庭には電気がないので懐中電燈など宝物として大切にこの中に一緒にしまっている (図6-c)。ブラウス、Tシャツ、ブラジャー、パンティー、ラウ、スカートなど特に普段着は紐にかけておくことが多い (表4)。一般家庭では、何人かの家族が小さな家に住み生活しているので、経済的にもスペース的にも箆笥など置く余裕も購入する余裕もない。したがって衣服も2~3枚というのが平均で、中に

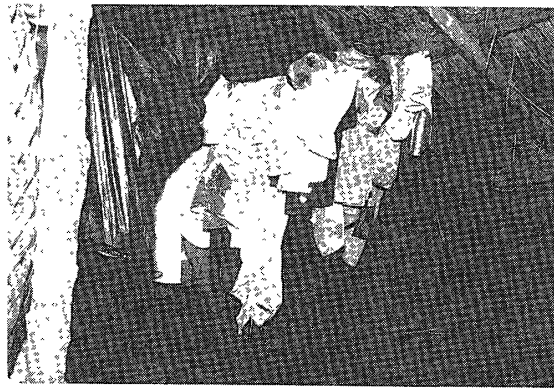


図6-a 衣服収納箆笥 (上流家庭)

表4 衣服収納方法

		洋	箱	紐	着
世帯主	上半衣	ワイシャツ	○		
		Tシャツ	○	△	△
		開襟シャツ	○	○△	△
		頭布 (ティアラ)	○	△	
		長袖バテックシャノ	○		
		肩掛け (スレンター)	○	△	
	下半衣	ヒンギコンブ	○		
		ヒンギカウル	○	△	△
		長ズボン	○	○△	
		パンツ	○	○△	△
半ズボン		○		△	
服飾品	ハンド	○			
	ネクタイ	○			
	帽子	○		○	
	眼鏡	○		○	
妻	上半衣	ブラウス	○	△	△
		Tシャツ	○	△	△
		ワンピース	○		
		ブラジャー	○	△	△
	下半衣	パンティー	○	△	△
		ラウ (サルーン)	○	△	△
		スカート	○	△	△
	服飾品	短パンツ	○		
		首飾り	○	△	
		腕飾り	○		
指輪		○			
	耳飾り	○			
	かもし	○			

上流家庭 ○
一般家庭 △



b 衣服を紐に掛ける（一般家庭）



c ダラムベティ（衣装箱）（一般家庭）

図6 衣服の収納方法

は着のみ着のまま、水浴した時洗濯して乾くのを待つという家庭の人も多いと聞く。衣生活に関しても全く簡易生活である。家の中には何もなくてガランとしていて、上の方の紐に衣服が無雑作に引かけてあるという程度である。

7. 衣服の入手方法

図7は、上流・一般家庭における男・女の衣服の入手方法を示す。上流・一般家庭ともにP（プレゼントされた衣服）は殆んどなく、購入によるものである。購入率は上衣、下衣、服飾品のすべてにおいて上流家庭が高く、男女ともに一般家庭との間に顕著な差が見られる。伝統的衣類は男女ともその大半が手織りのものを所有しているが、購入の場合には上流家庭は町の専門店（トコ）で、一般家庭では現在ではすべて市場で購入している（図8）。スンバの人達は、もともと物々交換で生活していた。それは違った土地に住んでいる親戚とか友達の間で物品の交換が行われた。前述したように地域に適した産物の違いがあり、海岸部では染織を、内陸部では農作物と牧畜を生業とした。そして海岸地方で作られた染織品と、内陸部で作られた農作物を交換して地域分業が円滑に行

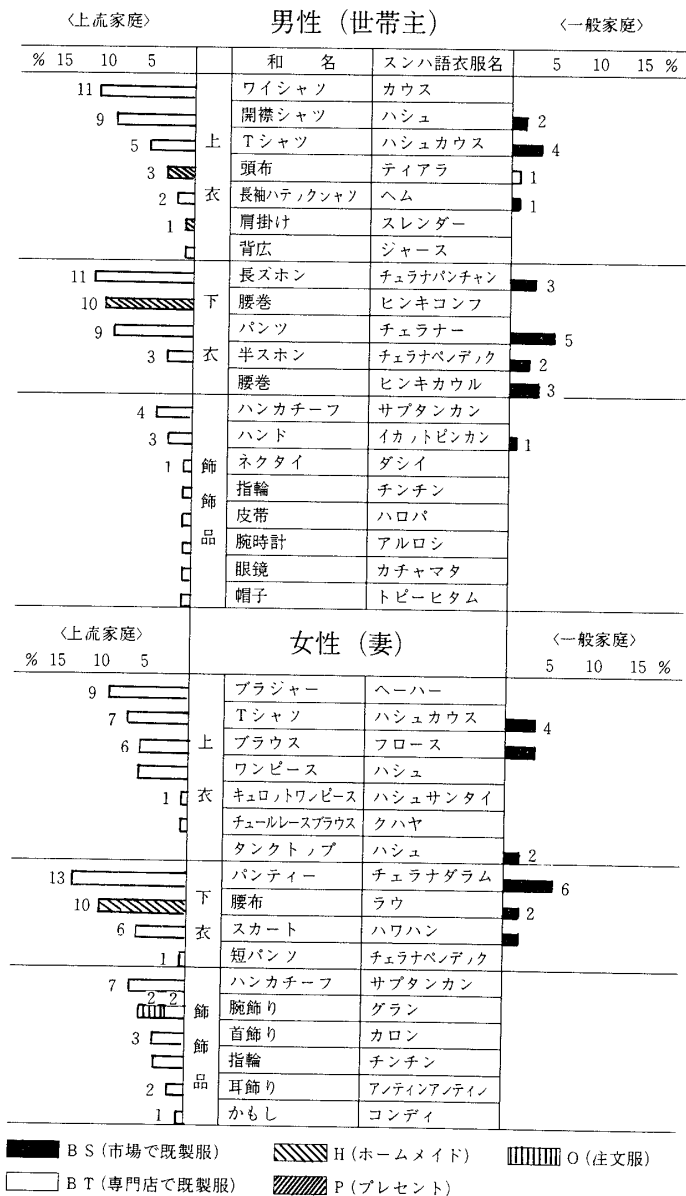


図7 衣服の入手方法



図8 衣服の入手方法 (市場)

われたのである。このような生産体系は、上記の気候条件のもとに、スンバ人の生活の知恵から社会体制の中の慣習によって定められたのである。

近年になり外来文化の流入によって市場が町に設営されるようになり、洋服の既製服、日用品、薬品類、食糧品、野菜類など、今まで入手出来なかったものも、貨幣で買うことが出来る体制となった。そこで蓄材として家にしまわれていた染

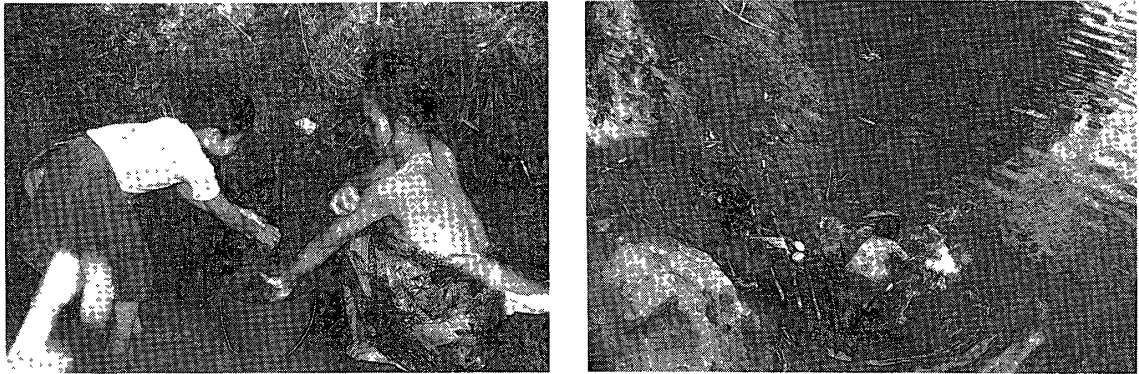
織品などを持ち出して観光客に売り、貨幣を取得して欲しいものを買う、いわゆるスンバ独自の生産体系による交換経済から、現在では異文化が持ち込まれ、好むと好まざるとにかかわらず、貨幣経済体系へと急速に移行しつつある。これはスンバ社会を形成する伝統的社会構造(階級制、生産体系、慣習)の近代化への大きな変容であろうと考えられる。

8. 水浴 (マンディ) と洗濯回数

表5に水浴と洗濯回数を示す。衣服の着替えと洗濯は水浴の時に行う場合が多く、水浴は集落のポンプ付きの水場、川、或は山間に住む者は湧水の出る場所で行われる。スンバ島では食事は1日2回、朝はコーヒーのみで、朝起きるとすぐに水くみに行き、そのついでに水浴とか洗濯が午前中に行われる。川に近い集落では毎日行くが、内陸部で水場が遠隔の場合は、水浴、洗濯は3.6日に1度の割合で行われる(図9)。洗濯物は川原に広げて干すか、家の周囲に張った紐につるして乾燥させる(図10)。

表5 水浴 (マンディ) と洗濯回数

地域 項目 間隔日数	WAINGAPU		LANBANAPU				MELOLO		ANAKALANG	
	水浴	洗濯	カワンコ村		ハタワン村		水浴	洗濯	水浴	洗濯
			水浴	洗濯	水浴	洗濯				
1	9	9	2	2			9	10	2	2
2	2	2	2	2			4	4	5	5
3	2	2	3	3	3	3	2	2	4	4
4					4	4	1	1		
5										
6										
総計	13回	13	7	7	7	7	16	17	11	11
平均	1.5	1.5	2.2	2.2	3.6	3.6	1.7	1.6	2.2	2.2



a 山間の湧き水で水浴する母子

b 川で洗濯と水くみ

図9 水浴（マンディ）と洗濯

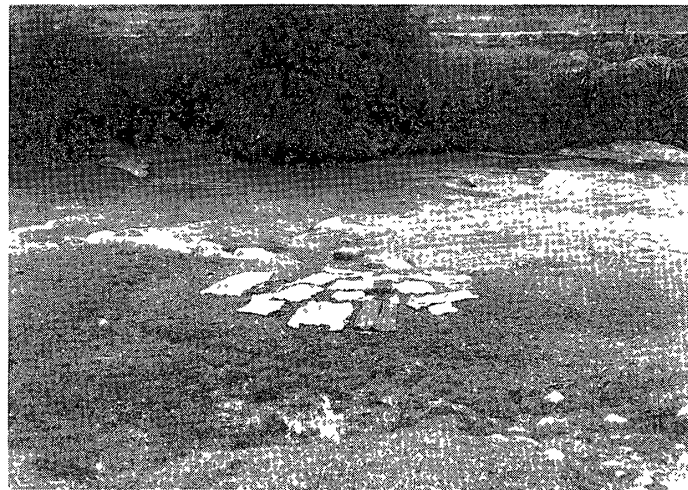


図10 川原で洗濯物を干す

おわりに

本報告は，スンバ島東部 Waingapu, Lanbanapu, Melolo, 西部 Anakalang 集落に住む家族の日常衣生活の実態をとおして，衣服の所有，分類，収納，管理に視点をあて分析を試みた。要約は次のとおりである。

1. 高率を占める所有衣服名は男性はTシャツ，長ズボン，腰巻，パンツ，女性はパンティー，ブラジャー，ブラウス，腰布，Tシャツ，スカートである。ブラジャーについては上流家庭の婦人のみの着用である。一般家庭の高年者の伝統衣装では下着の着用は見られず，洋装の若者に見られる程度である。これらは経済的要因が大であるが，下着は今後スンバ族の衣服体系の中に徐々に受容されていくであろう。

2. 衣服所有平均枚数は，家庭の経済レベルで異なり，上流家庭と一般家庭では所有数に大きい開きが見られる。後者では男女とも，洗濯着替えのための最低必要枚数であり，衣食住ともに簡易な生活パターンである。これらは伝統的社会構造の影響と考えられる。

3. 衣服の収納は，上流家庭は箆笥が主流に用いられ，一般家庭では，所有枚数も少ないので木箱の中か家の中の柱の間に紐を引張り，かけておく。

4. 衣服の入手はスンバ社会の慣習により，従来交換システムの中で行われたが，近年，購入の場合は上流家庭は専門店で，一般家庭はすべて市場で購入する。

5. 衣服の着替えと洗濯は、水浴の時に往う場合が多く、水浴は集落のポンプ付きの水場、川、或は湧水の出るところで午前中に行われる。

文 献

- 1) 古川智恵子・小川由香：日本服飾学会誌，8，126～128，日本服飾学会（1989）
- 2) 吉本 忍：インドネシア染織大系（上），236～237，紫紅社（1987）
- 3) 亘 純吉：焼畑農耕民の日常生活，四天王寺短大紀要，25，64～93（1983）
- 4) 佐藤多紀三：インドネシア民族文化，126～130，雄山閣（1986）
- 5) 大林太良・リップス：生活文化の発生，68～73，角川書店（1980）
- 6) ヴォルフキーリッヒ：世界の民族と生活，11，インドネシア，49～51，ぎょうせい（1981）

SUMMARY

By observing the clothing life in the tribes and people of Sumba Island (eastern district —— WAINGPU, LANBANPU and MELOLO; western district —— ANAKALANG villages), the possessions, classifications, store and managements of their clothes were analyzed

The results are as follows

- (1) : The male clothes that owned in the high rate are T shirt, long trouser, loincloth and pants, and the female clothes are in high-ratedly doned are panties, brassiere, loincloth, T shirt and skirt. The brassiere is weared only by the ladies of the high classes. The wear of underwear is not observed on the old people of common families who dressed in traditional style, only but on the young people in foreign dress. These are mainly depended on the economic factors and financial conditions. However, in future, underwear will be accepted gradually in the weaving system of Sumbanese striped fabrics.
- (2) : The forms and numbers in possessing clothes are depended on the economic factors and financial conditions of each family. There is a great difference between the owned numbers of upper class family and common family. On the latter case, in both side of male and female, they possess only a minimum of clothes that are spared for washing. And they have the simple-formed patterns of clothing life which are efficient and happy in enjoying life. Those phases are supposed to be influenced potentially by the Sumbanese traditional and socio-structural factors.
- (3) : The clothes are stored mainly in the bureau in the case of upper class family, but in the case of the common and ordinary class, as clothes are few, they are stored in wooden boxes or hanged on the string that extended between the posts within the house.
- (4) : On the base of the custom of Sumbanese society, the clothes had been gotten by the barter-exchange system hitherto, but recently they are bought both at the specialty store for the upper class family and at the common market for the ordinary class family.
- (5) : The clothes in Sumbanese Island are changing nowadays. But even in present time, they are washed on the cold bath in almost cases. And the cold bath is taken in the morning at the water-place, river and the place where water is gushing.